

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.19〉

〈鵜の島② 課題とキーマン〉

ここでも少子高齢化は大きな悩み。特に少子化は顕著で、1939年創立の鵜の島小は、かつて全校生徒2000人超という時代もあったが、現在は1学年20人程度で、2022年度は全児童128人の小規模校。23年度の入学予定者は7、8人と近年で最も少ない。

地域で子育て 3世代交流を軸に



昨年11月に行われた3世代交流グラウンドゴルフ大会(鵜の島小)

急坂での買い物難民化に腐心

だからこそ、子どもたちを地域で育てる意識は高い。子ども委員会(藤田重治会長)が中心となって実施する通学合宿は、心豊かな子どもを地域で育てる目的で行われている伝統行事。コロナ禍前は福祉施設や地域の一般家庭の協力を得て、お風呂を共にするなどし、子どもたちは地域で育てられていることを実感している。

3世代交流を意識した活動も鵜の島の大きな特徴と言える。小学校内には3世代交流ふれあい農園があり、毎年1、2年生が農園サポーター(室

井康人園長)と一緒にサツマイモ、ジャガイモの植え付けと収穫を体験。秋のグラウンドゴルフ大会、年末の輪飾り作りなども地域行事として定着し、高齢者にとっては孫世代と触れ合える貴重な機会、そして生きがいにもなっている。

3世代交流を意識した活動も鵜の島の大きな特徴と言える。小学校内には3世代交流ふれあい農園があり、毎年1、2年生が農園サポーター(室

は急坂が多く、自家用車を持たない高齢者の買い物難民化は深刻。同地域を走るコミュニティタクシーが、1日5本で週4日運行しており、昨年10月には鵜の島ふれあいセンターなどを経由する新コースに変わったが、住民ニーズをすべて満たしているとは言い難い。

中山の生徒は「地域元気応援隊」として地域行事に積極的に参加。清掃活動の他、裏方として3世代交流イベントを支え、地域を担う人材育成にもつながっている。もう一つの課題である高齢化は、ふれあいセンター近くの市営住宅、地区北側の桃山地域で進んでいる。特に桃山地域

桃山地域に住み、民生児童委員協議会の会長を務める堀池直司さんは「地域の西端にあるスローパークをコースに入れてほしいという意見もある。利用者を増やすためにも、コミュニティタクシーの周知は地域内でもさらに必要」と話す。